

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 株式会社セントメディア

研修事業の名称 WILL ケアアカデミー介護職員初任者研修(通学)

| 1 職務の理解 (6時間) | | |
|--------------------------|-----|--|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| (1)多様なサービスの理解 | 3時間 | 〔講義内容〕 ・介護保険サービス(居宅、施設)と介護保険外サービスについて理解する。 |
| (2)介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 3時間 | 〔講義内容〕 ・居宅、施設の多様な働く現場を理解する ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージを、視覚教材の活用により持たせる。 ・ケアプランの位置付けに始まり、サービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携を理解する。 〔演習内容〕 ・グループワークなどにおいて介護サービスの意味について理解を深める。 |
| 合計 | 6時間 | |
| 2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間) | | |
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| (1)人権と尊厳を支える介護 | 6時間 | 〔講義内容〕 ・個人の尊重、アドボカシー、エンパワメント、役割の実感、尊厳のある暮らしを理解する ・介護分野におけるICFを理解する。 ・QOLの考え方、生活の質を理解する。 ・ノーマライゼーションの考え方を「普通の生活」を交えて理解させる。 ・身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者に対する支援を理解する。 ・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業を理解する。 〔演習内容〕 ・グループワークなどにおいて尊厳を支えるということはどういうことかなどを理解する。 |

| | | |
|--------------|-----|---|
| (2) 自立に向けた介護 | 3時間 | <p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援、自立と自律の不可分、残存能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援を理解する。 ・ 介護予防の考え方を理解する。 <p>[演習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別ケアの事例の概略を伝え、何に着目しどのように支援したのかについて列挙してもらう |
| 合計 | 9時間 | |

| 3 介護の基本（6時間） | | |
|--------------------------|-----|--|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| (1)介護職の役割、専門性と他職種との連携 | 2時間 | 〔講義内容〕 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性を理解する。 ・重度化防止、遅延化の考え方を理解する。 ・自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護を理解する。 ・チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種からなるチームを理解する。 ・介護支援専門員、サービス提供責任者、医療職との連携、チームケアにおける役割を理解する。 |
| (2)介護職の職業倫理 | 1時間 | 〔講義内容〕 <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義、介護の倫理、介護職員としての社会的責任を理解する。 プライバシーの保護と尊重を理解する。 〔演習内容〕 <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場でプライバシーの配慮が必要な場面について考えさせ発表を行う。 |
| (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント | 2時間 | 〔講義内容〕 <ul style="list-style-type: none"> ・リスクとハザード、事故に結びつく要因を探り対応していく技術を理解する。 ・リスクマネジメント、リスク分析の手法と視点を理解する。 ・事故に至った経緯の報告、情報の共有を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・感染の種類、感染の原因と経路、感染に対する正しい知識を理解する。 |
| (4)介護職の安全 | 1時間 | 〔講義内容〕 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の健康管理、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識を理解する。 〔演習内容〕 <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策が実践できるようにする。 手洗い・グローブ・ガウンの着脱を行う。 |
| 合計 | 6時間 | |

| 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間) | | |
|------------------------------|------|--|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| (1) 介護保険制度 | 3 時間 | <p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターを理解する。 ・保険制度としての基本的仕組み、介護給付、予防給付、要介護認定の手順を理解する。 <p>[演習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の理念などの理解をグループワークにて深める。 |
| (2) 医療との連携とリハビリテーション | 3 時間 | <p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションについての理解をする。 |
| (3) 障害者総合支援制度およびその他制度 | 3 時間 | <p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念、障害者自立支援に関する制度の仕組み、個人の権利を守る制度を理解する。 ・介護給付、訓練等給付の申請から支給決定までを理解する。 |
| 合計 | 9 時間 | |

| 5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間) | | |
|----------------------------|------|---|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| (1) 介護におけるコミュニケーション | 4 時間 | <p>〔講義内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴。共感的理解、受容を理解する。 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの特徴を理解する。 利用者の思いの把握、意欲低下の要因、家族の心理的理解、いたわりと励まし、信頼関係の形成を理解する。 相手を非難しない、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違いを理解する。 視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、構音障害に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術を理解する。 <p>〔演習内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語的コミュニケーションをとる際には、非言語的コミュニケーションが重要になることを体験し理解させる。 |
| (2) 介護におけるチームのコミュニケーション | 2 時間 | <p>〔講義内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護におけるチームコミュニケーションの必要性、報告・連絡・相談の留意点について理解する。 ケアカンファレンスの重要性を理解する。 記録の目的と意義、種類を理解する 記録の書き方を理解する。 <p>〔演習内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別援助計画を作成、サービスを実践し、サービス内容を記録することを理解する。 |
| 合計 | 6 時間 | |
| 6 老化の理解 (6 時間) | | |
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| (1) 老化に伴うところとからだの変化と日常 | 3 時間 | <p>〔講義内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 防衛反応 (反射) の変化を理解する。 身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化を理解する。 <p>〔演習内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神的機能の変化を理解することの必要性についてグループワークを行う。 |
| (2) 高齢者と健康 | 3 時間 | <p>〔講義内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者に多い疾病と日常生活上の留意点、症状の小さな変化に気付く視点についての理解をする。 |
| 合計 | 6 時間 | |

| 7 認知症の理解(6時間) | | |
|--|-----|--|
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| (1) 認知症を取り巻く状況 | 2時間 | 〔講義内容〕 ・パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点についての理解をする。 |
| (2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 1時間 | 〔講義内容〕 ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理を理解する。 〔演習内容〕 ・もの忘れと、認知症による記憶障害の違いについてグループワークを行う。 |
| (3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 | 2時間 | 〔講義内容〕 ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴を理解する。 ・認知症の利用者への対応を理解する。 |
| (4) 家族への支援 | 1時間 | 〔講義内容〕 ・認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減を理解する |
| 合計 | 6時間 | |
| 8 障害の理解(3時間) | | |
| 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| (1) 障害の基礎的理解 | 1時間 | 〔講義内容〕 ・障害の概念とICFを理解する。 ・障害者福祉の基本的な考え方について理解する。 |
| (2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | 1時間 | 〔講義内容〕 ・身体障害、知的障害、精神障害の特徴、かかわり支援等についての基礎的理解をする。 |
| (3) 家族の心理、かかわり支援の理解 | 1時間 | 〔講義内容〕 ・障害の理解、障害の受容支援、介護負担の軽減を理解する。 〔演習内容〕 ・家族のストレスやレスパイトケアなどについてグループワークを行う。 |
| 合計 | 3時間 | |

| 9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間) | | | |
|------------------------------|---------------------------------|------|---|
| | 項目名 | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| 基本知識の学習 | (1) 介護の基本的な考え方 | 2 時間 | 〔講義内容〕 ・理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護を理解する。 〔演習内容〕 ・ I C F や法的根拠に基づく介護についてグループワークを行い理解を深める。 |
| | (2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 5 時間 | 〔講義内容〕 ・学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響を理解する。 〔演習内容〕 ・人の記憶のメカニズムを支援に結び付けて考えることをグループワークにて理解する。 |
| | (3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 5 時間 | 〔講義内容〕 ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋肉に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点についての理解する。 〔演習内容〕 ・人体の構造を理解し、演習にてボディメカニクスを体験することにより理解を深める。 |
| 生活支援技術の講義・演習 | (4) 生活と家事 | 6 時間 | 〔講義内容〕 ・生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観を理解する。 〔演習内容〕 ・支援を行うにおいて生活歴を知ることの重要性をグループワークにて理解する。 |
| | (5) 快適な居住環境整備と介護 | 3 時間 | 〔講義内容〕 ・家庭内に多い事故、バリアフリーを理解する。 ・住宅改修、福祉用具貸与について理解する。 〔演習内容〕 ・家庭内で多い事故についてグループワークにて防止方法等を検討する。 |
| | (6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 時間 | 〔講義内容〕 ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果を理解する。 〔演習内容〕 ・衣類の着脱（前開き・かぶり上下）の技術演習を行い習得する。 |

| | | |
|---|---------------|--|
| <p>(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>12 時間</p> | <p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者、介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援、移乗介助の具体的な方法を理解する。 <p>[演習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすへの移乗、車いすの移動（坂道・段差超え）杖介助歩行、視覚障害者の移動介助の技術演習を行い習得する。 |
| <p>(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>6 時間</p> | <p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法を理解する。 <p>[演習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座位、ベッド上、視覚障害者への障害者への食事介助の技術演習を行い習得する。 ・口腔ケア（座位、ベッド上）、口腔清拭の技術演習を行い習得する。 |
| <p>(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>6 時間</p> | <p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、入浴用具と整容用具の活用方法を理解する。 ・洗髪に関する基礎知識、ベッド上での洗髪方法を理解する。 <p>[演習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴介助、全身清拭、部分浴（足、手）、洗髪の技術演習を行い習得する。 |
| <p>(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>6 時間</p> | <p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識や排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法を理解する。 <p>[演習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルトイレでの排泄介助、一部介助の技術演習を行い習得する。 ・差込便器による排泄介助、一部介助の技術演習を行い習得する。 ・紙おむつの交換の技術演習を行い習得する。 |
| <p>(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>4.5 時間</p> | <p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法を理解する。 <p>[演習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドメイキング、シーツ交換の技術演習を行い習得する。 ・体位変換（仰臥位から側臥位、仰臥位から端座位（一部介助、全介助）、上方移動、水平移動の技術演習を行い習得する。 |
| <p>(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護</p> | <p>1.5 時間</p> | <p>[講義内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援を理解する。 <p>[演習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳ある「死」についてグループワークにて考え、介護職の役割の理解を深める。 |

| | | | |
|----------------------------|-----------------|--------|--|
| 生活支援技術演習 | (13) 介護過程の基礎的理解 | 2 時間 | 〔講義内容〕 ・介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチを理解する。 〔演習内容〕 ・個別援助計画の作成演習にて介護過程の展開の理解を深める。 |
| | (14) 総合生活支援技術演習 | 10 時間 | ・グループワークにて事例に基づき討議し、実技演習にて理解を深める。 ・事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 |
| 実習 | | 時間 | |
| 合計 | | 75 時間 | |
| 10 振り返り (4 時間) | | | |
| 項目名 | | 時間数 | 講義内容及び演習の実施方法 |
| (1) 振り返り | | 3 時間 | 〔講義内容〕 ・研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点を再確認する。 〔演習内容〕 ・研修を通じて学んだ事を「修了時の評価ポイント」にあわせ自己評価を行う。アセスメントの項目(健康状態・ADL・IADL・認知・コミュニケーション能力・社会との関わり・排尿・排便・褥瘡・皮膚の問題・口腔衛生・食事摂取・行動障害・介護力・居住環境・特別な状況)の内容についてグループワークを行う。 |
| (2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 | | 1 時間 | 〔講義内容〕 継続的に学ぶべきこと、研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例を紹介する。 |
| 合計 | | 4 時間 | |
| 全カリキュラム合計時間 | | 130 時間 | |

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。